第３学年２組　音楽科学習指導案

日　時　　平成３０年１１月２２日（木）
場　所　　島根県民会館　大ホール
指導者　　松江市立湖北中学校　教諭　井上多恵子

１　題材名　　リコーダーアンサンブルの美しい響きを味わおう
～フレーズのまとまりやテクスチュアを手がかりにして～

２　題材の目標

各声部の特徴や役割に関心をもち、それぞれの声部の重なり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する活動を通して、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現を創意工夫する力を育てる。

３　題材設定の理由

（１）題材について

音楽科第２学年及び第３学年で求められる「創意工夫して表現する能力」とは、「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取ること、表現の技能を伸ばすことを一体的に高めていくことが大切である。」と示されている。本題材は、旋律（ユニゾン）から声部が増していくアンサンブル曲を用いて、旋律を味わいながら声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現を創意工夫することをねらいとしている。また、教材として「ふるさと」を取り上げ、実態に応じたアレンジを行うことで、学習者の興味や関心を導き、楽しみながら音楽を合わせていく姿を育てたいと考え、本題材を設定した。

（２）生徒について

＜個人情報保護のため省略＞

（３）指導にあたって

本題材では、旋律を味わい、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かして音楽表現を工夫する力を育てたい。学習過程としては、親しみのある楽曲“ふるさと”のフレーズのまとまりに着目させることで、旋律や対旋律の美しさを味わわせたい。そして、学習によって再発見したことを生かしながら、個々の生徒が思いや表現意図をもって演奏を工夫できるようにしたり、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かしながら試行錯誤を繰り返したりする活動を通して、リコーダーアンサンブルの美しい響きを体得させたいと考えた。

そのためにまず、校内音楽会の学年合唱でも取り組んだ「ふるさと」の主旋律をアルトリコーダーで演奏することを通して、旋律を味わいながら、旋律の方向性や楽曲全体の盛り上がり（フレーズのまとまり）について考えさせたい。そして、三声部で構成された本教材と出合わせることで、これまでの学習を想起しながら、声部の役割を理解して、さまざまな声部の重なりを生かした演奏を６人グループで工夫する。（☆思考する場面）

フレーズのまとまりを考えるにあたっては、ハンドテンションを用いて、旋律の抑揚に注目させる。そして、旋律の抑揚を表現するためのポイントとして、“息づかい”（息の量、息のスピード、ブレスの位置）に留意させることで、主旋律と和声的な重なりをもつ旋律が織りなす音楽表現をグループで試しながら工夫させたい。

中間発表の場面では、発表後に自分たちが工夫したことを演奏して振り返る、あるいは演奏を聴いて振り返る時間をしっかりと取り、さらに工夫を重ねていくきっかけとしたい。（♡心が動く場面）

本題材を通して、お互いの気付きや表現の違いを意見交換したり、実際に演奏を通して確認したりする活動を行うことで、楽しい学びの中にも演奏する喜びを味わわせたいと考える。

4　学習指導要領とのかかわり

（1）　本題材で指導する事項　　A表現（2）ウ

（2）　取り扱う主な音楽を形づくっている要素　　テクスチュア

5　教材

ふるさと（岡野貞一 作曲）

6　評価規準

（1）　領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	（ア）音楽への関心・意欲・態度	（イ）音楽表現の創意工夫	（ウ）音楽表現の技能	（エ）鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽	○	○	○	
A・創作				
B・鑑賞				

（2）　題材の評価規準

ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽表現の創意工夫	ウ）音楽表現の技能
テクスチュアによって生み出される声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能（息づかい、タンギング）を身に付けて演奏している。

7　指導と評価の計画　（全３時間）

時	主な学習活動（○ねらい　・学習活動）	教材	評価規準と評価方法
1	○テクスチュアによって生み出される声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、楽曲にふさわしい表現の工夫をする学習に取り組もうとすることができるようにする。 ・主旋律の音配列による方向性に着目し、フレーズのまとまりについて考え、楽譜上に線を記入する。 ・リコーダーアンサンブルの演奏を聴き、テクスチュアの違いから生み出される全体の響きのよさや面白さに気付いて、演奏する。	ふるさと	ア 発言の内容 ワークシート
2（本時）	○フレーズのまとまりを感じ取りながら、各声部の役割を生かした音楽表現を工夫することができるようにする。 ・前時に既習したことを生かして、フレーズのまとまりと声部の重なりを手がかりにしながら音楽表現を工夫する。 ・工夫できたところまでを発表し合う。 ・グループの演奏を聴いて、自分たちの工夫を振り返ったり、他のグループの工夫点で参考になる点を取り入れたりしながら、演奏がさらによくなるために必要なことを考える。	ふるさと	イ 発言の内容 演奏の聴取 ワークシート
3	○全体の響きを感じ取りながら、各声部の役割を生かして演奏する技能を身に付けることができるようにする。 ・表現したい意図を実現するために必要な技能（息づかい、タンギング）を意識して演奏する。 ・工夫したことを発表するときに、なぜそのように表現したのかを説明する。	ふるさと	ウ 演奏の聴取 ワークシート

8　本時の学習（本時２／３）

（1）　ねらい

フレーズのまとまりを感じながら、各声部の役割を生かした音楽表現を工夫することができるようにする。

（2）　展開

学習活動（・予想される生徒の反応）	教師の支援（指導上の留意点）	評価規準と評価の方法
1　ウォーミングアップとして、ヘ長調の音階と「ふるさと」の各パートを演奏する。 2　学習のめあてと流れを確認する。		
「フレーズのまとまりと声部の重なりを生かしてアンサンブルを工夫しよう」		
3☆フレーズのまとまりや声部の重なりを生かして、班ごとに音楽表現を工夫する。 ・メロディを引き立てるために対旋律の息づかいを工夫して演奏してみよう。	・「フレーズのまとまり」「声部の重なり」を手がかりにすることを確認する。 ・困り感のあるグループには、表現意図を音楽表現につなげるための声かけを工夫する。	イ 発言の内容 演奏の聴取 ワークシート
4　いくつかのグループの演奏を聴く。 ・自分たちとは違う工夫だけど、それもいいね。	・「フレーズのまとまり」や「声部の重なり」による音楽表現のよさに気付くことができるように助言する。	
5♡他のグループの演奏を参考にして、自分たちの工夫点を振り返る。 ・自分たちも同じような工夫をしてみよう。	・他のグループの演奏を参考にして、自分たちの工夫点を振り返る場を設定する。	
6　本時で学んだことを振り返る。	・振り返りの発表から、指導者がよさを価値付けして伝え、次時への学習意欲につなげる。	

（3）　予想される生徒の具体的な姿

評価の観点　イ【音楽表現の創意工夫】

テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

十分満足できると判断される生徒の姿の具体例	・フレーズのまとまりを捉えながら、全体の響きを意識して演奏している。 ・声部の重なり方を理解して、旋律の動きや全体のバランスを考えて演奏を工夫するために、息づかいやタンギングを用いて説明している。 ・副旋律にもフレーズのまとまりを感じて工夫している。
おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	・フレーズのまとまりを捉えるために、歌ったり手振りを加えたりして演奏を工夫している。 ・声部の重なり方を理解して、旋律の動きや全体のバランスを考えて演奏を工夫している。

支援を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援	・フレーズのまとまりについてわからない →歌いながら手を使って感じ取れるようにする。 ・声部の重なり方の違いがわからない。 →これまでのアンサンブルの学習を想起させる。

（4）　授業研究の視点

○「フレーズのまとまり」や「声部の重なり」を手がかりにして、音楽表現を工夫させる手立ては適切であったか。

○他のグループの演奏を参考にして、自分たちの工夫点を振り返る場面では、よりよい音楽表現を求めようとする生徒の姿が見られたか。